

問題No.1

施設計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 日本型SPAとは大手企業の二次アパレルメーカーから始まった製造販売店を指し、生活者のニーズに対応した新業態型の大規模小売店舗を意味する
2. POSシステムとは、仕入れ時点での情報管理システムのことである
3. POP広告とは、購買時点広告という意味である
4. LCCとは、企画・建設から廃棄に至るまでの建物の生涯の総費用をいう

【解説】

改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.45、212、322、337 参照

答 2

問題No.2

大規模な商業施設を計画する場合に考慮しなくてはならないことに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. エネルギーの効率的な利用を図るとともに、自家発電により、公共電力負荷の低減をめざす
2. 施設建築物によるビル風の発生には、フェンスや植栽などによりその影響を和らげる
3. アクセスを車だけに頼らず、多様な交通手段の検討をし、自動車交通の軽減を図る
4. 商業施設と住宅地区は密接な関係にあり、緩衝空間などを設けず、接するように施設計画を行う必要がある

【解説】

改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.226 参照

答 4

問題No.3

小規模店舗に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 最寄品とは、日々必要な買物商品のことである
2. 生鮮食品や雑貨、衣料品は側面販売が適している
3. セルフセレクションとは、集中レジで一括精算する販売形態のことである
4. 飲食店の1日の売上高は、「客単価×客席数」で計算できる

【解説】

改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.228～230 参照

問題No.4

建築と環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 屋上緑化には、熱環境調節効果がある
2. 不完全燃焼で発生する一酸化炭素(CO)は、無色無臭で毒性は少ない
3. 自然換気は、風によるほか、室内外の温度差によっても行われる
4. 壁は重い材料で厚くすると、一般に、外からの騒音防止に効果がある

【解説】

改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.244～250 参照

問題No.5

建築法規に関する次の記述のうち、建築基準法上最も不適当なものはどれか。

1. 百貨店の売場は「居室」である
2. ホテルは「特殊建築物」である
3. 建築物の1階で、隣地境界線から3m以下の部分は「延焼のおそれのある部分」である
4. ガラスは「難燃材料」である

【解説】

ガラスは不燃材料。改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.256、258 参照

問題No.6

建築構造に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 建築基準法により、主要構造部を木造とする建築物は、延べ面積3,000㎡以下である
2. 鉄骨構造は、単位床面積当たりの重量が鉄筋コンクリート構造よりも軽い
3. 鉄筋コンクリート構造には、ラーメン式構造、フラットスラブ式構造、壁式構造などがある
4. 補強コンクリートブロック造とはレンガを用い、接合部を鉄筋によって補強された建築物である

【解説】

RCB造とは空洞コンクリートブロックを用い、接合部分を鉄筋コンクリートによって補強された耐力壁によって構成される建築物である。改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.276～277、280 参照

答 4

問題No.7

建築設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. エアシューターとは大型荷物専用の搬送設備である
2. ガス設備の中の、都市ガスの比重は、LPガスより軽い
3. 排水トラップは、排水管や下水管からの臭気等の流入を防止するために設ける
4. スプリンクラー設備は、初期消火に極めて有効である2cm、幅4cmの寸法の部材が多く持ち入れられるところから、俗称ツーバイフォー工法と呼ばれる

【解説】

改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.286～292 参照

答 1

問題No.8

照明計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 電球型発光ダイオード(LED)は寿命が長く、消費電力も少ない
2. 物販店の標準的な照度は、150～300ルクスである
3. 光源のもつ光の量を表す単位を「ルーメン」という
4. 店舗内の詳細な明るさを知るためには、照度分布図が必要である

【解説】

店舗の標準的な照度は500～800ルクス。改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.297～298、301、303 参照

答 2

問題No.9

音の性質に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 音響出力とは、音源から発する音のエネルギーをいう
2. 壁は重い材料で厚くすると、一般に、外からの騒音防止に効果がある
3. 吸音状態によって残響時間は変わらない

4. 音源からの距離が2倍になると、6dB ずつ減衰する

【解説】

改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 309～310 参照

答 3

問題No.10

サイン計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 屋外広告物条例の内容は、各都道府県・政令指定都市によって異なるが、大要は共通した項目が多い
2. 文字・言語によるサイン計画では、誤認されないことよりも目立つことが大切である
3. ピクトグラムとは、伝達情報を図案=表意記号に置き換えたものである
4. 外部照明方式は、保守点検がしやすく、維持費が安い

【解説】

文字・言語によるサイン計画では、目立つことよりも誤認されることが大切である。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 315～316、318 参照

答 2

問題No.11

設計にあたっての留意事項に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. ISO（世界標準）でのPDCAサイクルとは、P（計画）D（デザイン）C（点検）A（是正）である
2. 商業の機能を具体化する設計の5W1Hの中の「WHERE＝どこで？」とは地域特性や競合環境を調査することである
3. 1990年の「地球温暖化防止計画」を受け1992年、省エネルギー施策と併行して、地球環境の保全、地域環境の親和性、室内環境の健康・快適性などの研究を建設省が立ち上げた
4. 建築のアメニティにかかわる項目を「環境」という言葉で表すと、熱・空気・光・音・空間の5つに分けられる

【解説】

DはDESIGN デザインでなくDOの実行である。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 323、327～328、332 参照

答 1

問題No.12

ユニバーサルデザインに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 視覚的に独創的なデザイン
2. 身体的に操作しやすいデザイン
3. 誰もが認識しやすいデザイン
4. 誤操作しても問題のないデザイン

【解説】

改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 328、332、337、341 参照

答 4

問題No.13

健康のための設計に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. シックハウス対策として、建材には、低ホルムアルデヒドの材料を用いる
2. シックハウスは、住宅だけが問題であり、オフィスビルや学校などでは問題ない
3. 設計にあたっては、通風、換気に充分配慮する
4. 設計にあたっては、医学的配慮はもちろん、感覚的、精神的な影響までも考慮する必要がある

【解説】

改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 333～334 参照

答 2

問題No.14

建築物の省資源・省エネルギー化に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. スクラップ・アンド・ビルドを積極的に促進する
2. わが国のCO₂排出の1/3は建築関連から出ている
3. 低環境負荷建材の採用を促進する
4. 建物の長寿命化を促進する

【解説】

1. スクラップにより大量の廃棄物が発生する。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 345 参照

答 1

問題No.15

全般的な施設計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 商業施設には顧客に新たな魅力を提供するためにオブジェ、モニュメント、シンボルなどの環境演出が欠かせない
2. 商業施設では投資コストについて建築、設備、家具什器などのコストバランスを考えることが大事である
3. 商業施設は自然、町並み、風景と調和した快適性としてのアメニティ・デザインも重要である
4. 商業施設にとっての省エネルギーとは、環境負荷をより小さくするために、未利用エネルギーの活用、低効率設備機器の採用などが求められる

【解説】

4. 設備機器は高効率なものが求められる。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p.328、332、337、341 参照

答 4